

2014年3月期 連結決算ハイライト

■前期比増収増益。中期経営計画初年度は順調に進捗。

- ◇売上高 11,145 億円 9.4%増収
- ◇営業利益 198 億円 8.3%増益
- ◇経常利益 202 億円 20.7%増益
- ◇当期純利益 118 億円 23.4%増益

■財務体質は大幅に改善。

損益の状況						
(単位:億円)	2013/3期 通期実績	2014/3期 通期実績	前期比		2015/3期 通期	
			増減額	増減率	見通し	前期比 増減率
売上高	10,192	11,145	953	9.4%	11,500	3.2%
売上総利益	800	864	64	8.0%	-	-
販売費・一般管理費	618	666	49	7.9%	-	-
営業利益	183	198	15	8.3%	220	11.2%
受取配当金	8	8	0	-	-	-
利息収支	△ 30	△ 29	1	-	-	-
持分法損益	2	7	5	-	-	-
為替差損益	9	24	15	-	-	-
その他	△ 5	△ 7	△ 2	-	-	-
営業外収支	△ 16	4	19	-	-	-
経常利益	167	202	35	20.7%	205	1.7%
特別利益	33	24	△ 9	-	-	-
特別損失	△ 32	△ 35	△ 3	-	-	-
税金等調整前当期純利益	168	191	23	13.7%	-	-
法人税等及び少数株主利益	△ 72	△ 73	△ 1	-	-	-
当期純利益	96	118	22	23.4%	110	-6.8%

【売上高】
電子・デバイス、鉄鋼・素材・プラントセグメントを中心に全セグメントで増収。

【営業利益】
電子・デバイス、食料セグメントの減益を鉄鋼・素材・プラントセグメントでカバーし増益。

【経常利益】
営業利益の増益に加え、為替差益・持分法による投資利益等、営業外収支の良化もあり増益。

【当期純利益】
経常利益の良化に伴い増益。

資産・負債及び純資産の状況

(単位:億円)	2013/3末	2014/3末	2013/3末比	
			増減	増減率
総資産	3,992	4,285	293	7.3%
グロス有利子負債	1,469	1,419	△ 50	-3.4%
ネット有利子負債	864	680	△ 184	-21.3%
株主資本	795	907	112	14.1%
その他の包括利益累計額	△ 250	△ 190	60	-
少数株主持分	214	245	32	14.7%
純資産合計	759	962	203	26.7%
自己資本(注1)	545	717	171	31.4%
自己資本比率(注2)	13.7%	16.7%	3.0pt改善	-
ネットDER(注3)	1.6倍	0.9倍	0.7pt改善	-

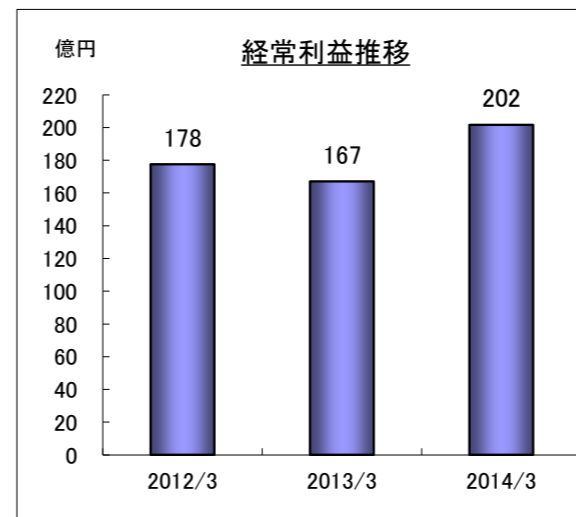
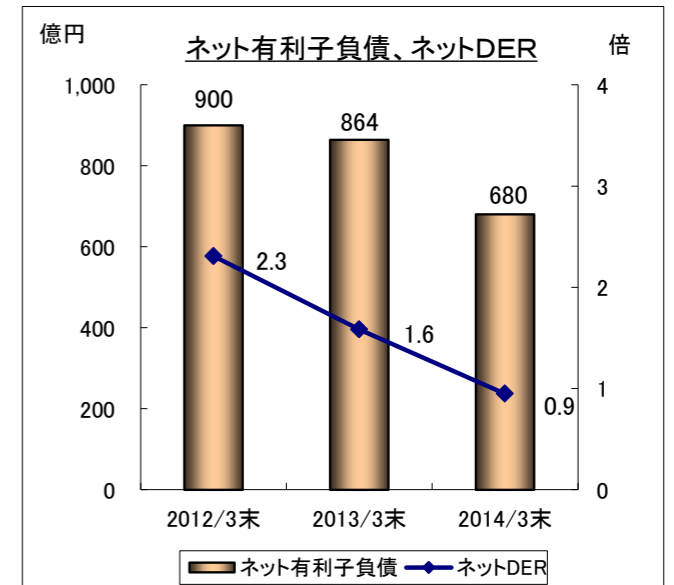
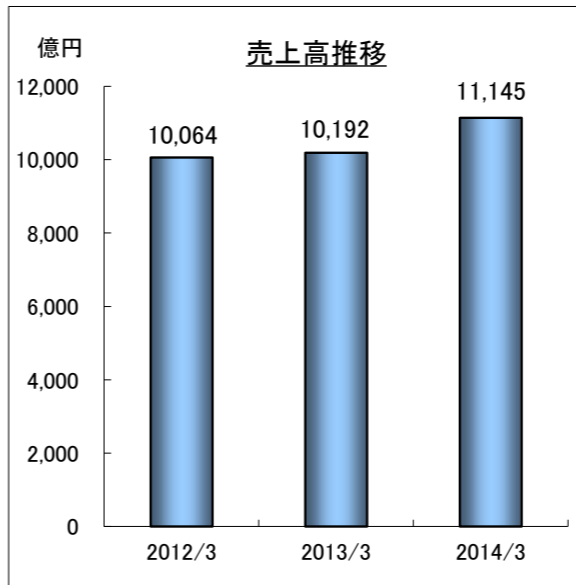
【総資産】
現金及び預金の増加等により293億円増加。

【有利子負債】
グロス有利子負債は50億円減少。
ネット有利子負債は184億円減少。

【純資産】
当期純利益による利益剰余金の積み上げ等により203億円増加。
純資産から少数株主持分を除いた自己資本は171億円増加。

上記の結果、自己資本比率は16.7%、ネットDERは0.9倍に改善。

(注1)自己資本=純資産-少数株主持分 (注2)自己資本比率=自己資本/総資産 (注3)ネットDER=ネット有利子負債/自己資本



セグメント情報						
(単位:億円)	売上高(外部売上高)			営業利益		
	2013/3期 通期実績	2014/3期 通期実績	前期比 増減	2013/3期 通期実績	2014/3期 通期実績	前期比 増減
電子・デバイス	2,368	2,773	406	83	78	△ 6
食料	2,879	3,090	211	32	21	△ 11
鉄鋼・素材・プラント	4,342	4,688	346	51	81	30
車両・航空	507	545	37	14	15	0
報告セグメント合計	10,097	11,097	1,000	180	195	14
その他(含む調整額)	96	49	△ 47	2	2	0
総合計	10,192	11,145	953	183	198	15

【電子・デバイス】:増収減益
電子機器・材料事業は輸出取引を中心に堅調に推移。半導体関連事業は、国内における部品の需要が伸長。システムインテグレーション事業は、企業のインフラ設備投資を受け堅調に推移。一方、モバイルソリューション事業はキャリア間の競争激化の影響を受け営業利益が減少。

【食料】:増収減益
セグメント全体で為替相場の変動を主因とし、営業利益減少。畜産事業は、国内相場の上昇により輸入量が増加し順調に推移。食糧事業は安定的な調達の実現や取扱高の増加により堅調に推移。一方、食品事業は、円安によるコスト高を販売価格へ転嫁するのに時間を要し、営業利益が減少。

【鉄鋼・素材・プラント】:増収増益
鉄鋼事業は、欧米向けの自動車用特殊鋼取引や、前期に買収した北米での油井管加工事業が堅調に推移。また、エネルギー事業は、石油製品の販売が好調。プラントインフラ事業も、工作機械・産業機械取引において消費税増税前の駆け込み需要があったこと等により、全般的に順調に推移。

【車両・航空】:増収増益
航空機部品取引は堅調に推移し、北米向けの二輪車・四輪車用部品取引も順調に推移。一方、アジア向け建設機械関連等の取引が低調。

* 本資料に記載されている業績予想ならびに将来に関する記述は、当社が発表日現在入手可能な情報および合理的な仮定に基づいた推測を前提としたものであり、実際の業績は様々な要因により本資料に記載されたものと大きく異なる可能性があることにご留意ください。
* 表示の数値は億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。